

群 教 セ	E03 - 03
	平14.210集

特殊学級と学年の協力体制の在り方の研究

— Aの個別の指導票を活用して—

特別研修員 浅見 育男 (群馬町立中央中学校)

《研究の概要》

特殊学級の生徒の学習活動を設定する場合、特殊学級での学習場面だけでなく、通常の学級との交流授業が設定される場合が多い。しかし、その学習において授業担当者と特学担任、及び関係学年とがしっかりと連携していくことは難しい。本研究は個別の指導票を活用することによって特学担任と特学生徒の授業を担当する者、関係学年の共通理解を図り、指導の充実をねらったものである。

【キーワード：個別の指導票、共通理解、関係学年、特学担当者会、交流授業】

I 対象生徒 中学1年 A

II 主題設定の理由

新学習指導要領は第1章総則の第6、指導計画の作成等にあたって配慮すべき事項において「障害のある生徒などについては、生徒の実態に応じ、指導内容や指導方法を工夫すること。特に、特殊学級又は通級による指導については、教師間の連携に努め、効果的な指導を行うこと。」としている。また、「個に応じた指導」をはじめ一人ひとりを大事にする指導は近年の教育の目指すところであり社会全体のニーズである。

しかし、実際に特殊学級において複数の教師で生徒を指導する場合、一人ひとりの生徒について教師間の共通理解が十分にされることはたいへん難しいことである。本校の特殊学級の指導はここ数年、特殊学級の経験の浅い教員が担当することが多い。指導の仕方やその進路に関するものまで専門的な知識を持った特殊学級の経験のある教員に情報を提供してもらい、熱心に取り組んでいる。しかし、最近では入級する生徒の障害も重度化してきており、その指導は難しくなっている。特に進路指導は受け入れ先が限られることもあり、担任、保護者とも大変苦慮している。特殊学級の担任と特学生徒の指導を担当する学年との連携の在り方を研究して、1年生の時期から卒業後の進路を視野に入れた指導を確立できれば、在学中の指導内容についても改善が加えられ、指導も充実できると考えられる。

特に今年はAの個別の指導票を活用して、特殊学級担任と特学生徒の指導を担当する学年との連携の在り方について探っていきたい。これを活用することにより、これまで本校の課題となっていた、特殊学級担任と教科担当との情報交換や生徒理解等、解消できることも多いと考え、この主題を設定した。

III 研究のねらい

現在本校の特殊学級は1クラスであり、5名の生徒が在籍している。数年前までは、近隣の特殊学級に比べて適正就学指導のとおり入級してきている生徒が多い印象を受けたが、近年は生徒の障害も重度化している。中学卒業後、多くの生徒は養護学校高等部へ進み、高等部を経て福祉作業所に入所している。なかには普通高校へ進み、就職するものもいるが、最近はほと

んどいない。特に最近の経済状況では就職口を探すことは大変困難である。

このような状況の中、今年度は担任1名と助手、授業担当者10名で特学生徒を指導している。かわり方は、単独で特学の授業を持つ者、TTを実施する者、協力学級の授業を担当する者と様々だが、生徒の卒業後の進路や将来の姿を考え授業を組み立てるとき「どのように特学の生徒を活躍させたらよいのかまよう」「何に重点をおいて指導したらよいのか」といった声をよく耳にした。このような問題は教員間の情報交換や共通理解を図り、担当する授業のねらいや役割分担をはっきりさせることによって改善できると考えた。現在自分の立場は第1学年主任であり、Aの学習をより効果的なものにするためのコーディネーター的な立場である。特殊学級担当者会議のような共通理解の場や時間を確保し、個別の指導票を有効に活用して、授業担当者の不安を解消するとともに、今後の学習指導や交流授業での指導効果を効率的になるよう改善していきたい。

IV 研究の見通しと計画

特学担任と授業担当者の連携をしっかりとらせることによって、対象生徒の各授業でのねらいや身につけさせたい力や担任・保護者の願いなどがはっきりして授業改善につながっていくだろう。また、個別の指導票を活用することにより、特学担当者間における意見交換も焦点化されて効率よくできるようになるであろう。

表1 年間の計画

時 期	主な活動	研究とのかかわり
1 学期	・ Aおよび保護者の考えを確認 ・ 主な進路先の調査 (事業所・福祉作業所・養護学校) ・ 個別の指導票の様式検討 ・ 特学担当者会の設置	・ 指導票への記入 指導の重点設定 (Aから) ・ 指導の重点設定 (進路から) ・ 効果的な活用 ・ 共通理解の徹底
2 学期	・ 個別の指導票による共通理解 ・ 若葉祭・体育祭で実践発表 ・ 成果と課題の検討	・ 実践1 (若葉祭) ・ 実践2 (体育祭) ・ 検証
3 学期	・ まとめ	・ まとめ

V 研究の内容

1 特殊学級担当者会議について

特学生徒の指導に関係を持つ教員間の共通理解を深める目的で開かれた。今回は各生徒の特性の紹介と授業についての特学担任からの要望が中心となった。出席者からは前年度までの授業の様子や実際の指導法についての質問が出された。

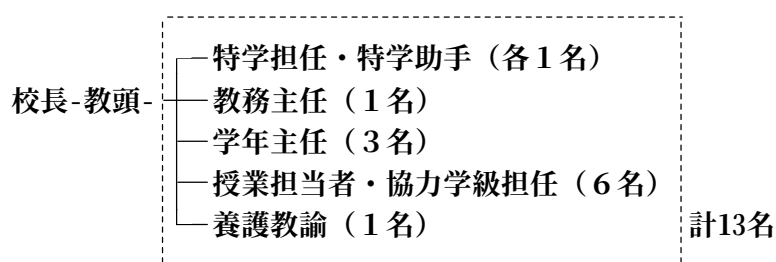


図1 組織図

2 実践

(1) 特学担当者会議

ア 構成員

会議に常時出席するのは点線部分。校長、教頭は必要に応じて出席する。
普通学級の授業（交流授業）で特学生徒を担当する教員にも呼びかける。

イ 開催回数と時期

学期に2回程度を目標にする。回議方式で指導票の活用を図る。

ウ 「個別の指導票」の活用法

形式的な書類ではないので、何度も書き足したり、変更していきながら指導に役立てるようにする。（特に様式2）

表1 個別の指導票の例

様式1 名前 ○○ ○○

学年	進路の希望	保護者から学校への要望事項	担任意見
1年	卒業後のことについてはまだ考えていない。親自身もどのような選択肢があるのかよくわからないので教えてほしい。	・最近気持ちが成長してきたと感じている。往復の安全を心配している。 ・将来一人で生きていくための知識を身につけさせてほしい。 ・体育祭は楽しそうだった交流する機会多く作ってほしい。 ・2年時のチャレンジワークはできることなら一緒にさせてみたい。	・校区外からの入学なので、友達関係を特に注意したい ・やや過保護気味、自分でできることをふやしていきたい。 ・身のまわりのことについてはだいぶできるようになってきた。学習についての意識も高まってきている。 ・まわりの友達と上手につき合うことを学習させたい。 ・百人一首大会への参加も考えたい。 ・精神的な成長が要求されるが可能であれば頑張らせたい。うまくいけば大きな自信につながると思う。

教科	既得事項	学習事項	目 標	教科担当欄	特学担任欄
社会 特学	図書館、役場、郵便局、銀行の場所と役割について理解している。	身近な地域群馬町カルタの使用も可能	学校のまわりについて地図や実習を通して理解する。	・通学路についてはほぼ頭に入っているようだ。 ・地図に書くことは難しい。 ・役場、図書館の位置がわかっている。	・自分のうちから学校までの道順をしっかり把握させたい。 ・危険なところを認識させたい。
理科 特学	校内の草花などをていねいに観察できる。	植物の観察	草花の観察を通して季節の移り変わりに気づく。	・季節の移り変わりを身のまわりの植物の変化などからも感じ取れるようにしたい。	・特学の畑や作業などに関連させ、植物等を育てる大切さに気づかせたい。
英語 特学	アルファベットを何とか書ける。	A L T と話そう	英語に親しみ会話を楽しむ。	・学習という意識でなくコミュニケーションを楽しませたい。	・簡単な会話で自信をつけさせたい。
音楽 交流	大きな声で歌うことができる。	合唱発表会に向けて	音程を考えて歌える。	・歌うことが好きでのびのび歌うことができるが周りが見えていない面がある。 ・曲想を考え、強弱をつけさせたい。 ・高度な要求にはへそを曲げてしまうことがある。	・歌うことの楽しさを体験させたい。 ・たくさんの生徒と歌うことで協調性を養いたい。

エ 個別の指導票の活用

① 授業担当者が書いた部分を特学担任が様式2にまとめる（4～6週間ごと）

特学担任が各教科への要望事項等を記入の上教科担当へ配布する。各教科担当は教科でのねらいと特学担任の要望等をふまえ計画表を作成し、特学担任へ提出する。

② 各指導票は6組（特学）にまとめてファイル。

自分の授業以外の様子や保護者の考え等を参考にできるように作成した指導票はまとめて特学教室に保管することにした。

③ 授業担当者には様式2のみを配る。

④ 進路の目標に照らして特殊学級担当学会議で指導内容の役割分担と活動場面の作り方等について協議する。

(2) 公開授業（10月7日）

授業中のAの活動場面の設定について、個別の指導票をもとに特学授業を公開して、特学の授業担当者に見てもらった。特学担任とのTTの形態をとったが、支援のしかたや指導の手法が具体的に理解できたという感想が多かった。特に資料として提示された卒業後を考え、中学生生活で身につけさせたい力（表2）は授業を組み立てる上で何に重点をおいて活動場面を設定すればよいのか悩んでいる授業担当者にとって特学担任が何を期待しているのかよくわかって有効であった。

ア 授業のねらい

大きな群馬町の地図の中から県道や主な公共施設を見つけて色を塗ることができる。

イ 準備

群馬町の地図、インターネットで調べた資料、地図記号のカード、色鉛筆、画用紙

ウ 展開

学 習 活 動	A の 学 習 へ の 支 援	時間
○前時までに調べた県道や周辺の公共施設についてカードや資料をもとに確認する。 （役場、保健センター、中央公民館、福祉作業所、町民プール、図書館など）	・指で県道をなぞれるようにする。 ・絵や写真を見ながら施設についてカードを置く場所を移動させて確認できるようにする。	15分
○実際に見学に行きたい施設について道順や内容を調べる。 （国分寺跡、保渡田古墳群を） 取り上げる ○地図上の位置、作られた年代や現在の様子について、「私たちの郷土」をもとに調べる。 ○できたところまでを発表する。	・群馬町の大きな地図の中の県道や中央中周辺の主な施設の位置を教師とともに確かめ、色鉛筆で色を塗れるようにする。 ・他の発表をしっかりと聞けるようにする。	30分
○次時の予定を知る。		5分

表2 中学校生活で身につけさせたい力 事前調査から)

主な進路先	養護学校	福祉作業所	企 業
期待する生徒像	・ 身の自立ができる ・ 我慢ができる ・ 意思表示ができる ・ 頑張る意欲がある ・ 成功体験が豊富 ・ 社会との交流がある	・ 挨拶ができる ・ きまりを守れる ・ 仲良くできる ・ 家庭の協力がある	・ 挨拶ができる ・ 他人と協調できる ・ 仕事への責任を持つ ・ 意思表示できる ・ 身だしなみがしっかりできる
学習事項とのかかわり	授業時の挨拶の徹底 係活動・委員会活動での責任分担 交流学习・校外学習・学校行事などでの協力・協調		

(3) 若葉祭の合唱(10月25日)

2学期の音楽の授業に交流として参加をはじめた。週1回の授業であるが何とか一緒に参加できた。最初はただ元気良く歌うだけだったが徐々に技術面にも気をつけて歌えるようになった。個別の指導票は、特学担任と教科担当との学習のねらいの微妙なずれを調整する上で効果があったと思う。

表3 音楽の個別の指導票(一部)

	教科担当欄	特学担任欄
音 楽	・ 歌うことが好きでのびのび歌うことができるが周りが見えていない面がある。 ・ 曲想を考え、強弱をつけさせたい。 ・ 高度な要求にはへそを曲げてしまうことがある。	・ 歌うことの楽しさを体験させたい。 ・ たくさんの生徒と歌うことで協調性を養いたい。 ・ 学級(通常学級)での練習に参加させてもらいたいと思います。

(4) 学年体育祭への参加

1学期から体育は協力学級の授業に参加していた。最初はお互いにとまどったが、通常学級の生徒に何とか協力してもらいながら一緒に活動ができる。最初から一緒に活動していたため、他の授業に比べてのびのび活動していた。まわりの通常学級の生徒も慣れている。バレーボールへの参加としては変則的だが活動として違和感がなかった。サーブが入ったときや、ポイントが決まったときに手を合わせて喜び合う姿は良好な関係をよく現していた。保護者も参観に来ていたが他の生徒との様子を見て安心していただけたようだ。

表4 体育の個別の指導票（一部）

	教科担当欄	特学担任欄
体 育	・ボール運動に親しませたい ・ゲームの楽しさを味わわせたい ・球技なので、技術的に無理があります ・周りとの関係は良好です ・大会への参加方法は変則的になると思います ・気に入らない練習にはそっぽを向くことがあります ・サーブのコツを覚えボールが遠くに飛ぶようになってきました ・サーブは前から打てば入るようになりました。本人も自信があるようです ・サーブが入らない子が多いので大会のルールを考えてみます	・運動は好きなのでのびのび参加させたいです ・しかたないとおもいます 学級でも練習します ・他のクラスの理解が得られるか心配ですが ・集団での協調性を養いたい。体育は好きなので少し我慢させたいです ・学級でも練習させて満足感を持たせたいです

(5) 実践を終えての意見と感想

これまで特学の生徒が行事に参加する場合、ねらいがはっきりしないまま集団の中に何となく参加していることが多かった。今回個別の指導票を使って特学担任と授業者が何度も意見交換し、調整した上で、Aの行事参加を計画して、特学としてのねらいはもちろん、教科としてのねらいもしっかり持って参加させることができた。また、行事をきっかけに何度も意見交換することで学年職員にとって、これまでよりも身近に特学が感じられた。行事間近になっての最終調整は個別の指導票よりも直接会話による方が多くなったが、個別の指導票で互いに共通理解があったことで意見交換が効率よくすすんだと思う。特学担当者会議については今年度初めて開催され、意見交換や共通理解に役立ったが、これだけの人数が一堂に会するのは時間的に難しい。学期に2回を目標に始められたが、1回でもきびしい現状である。校内研修や教科会議のようにあらかじめ時間を設定しておくか、回議方式による個別の指導票を活用して効率化を図るのが現実的である。

多くの教員からあげられた感想や意見は上述したような内容である。また、授業担当者からの意見と感想には次のようなものがあつた。

- ◎ 行事が近づくにつれ協力学級との親密さが増したのが良かった。
- ◎ 教科担当と担任の微妙なねらいの違いが感じ取れた。
- ◎ 体育祭では全く違和感がなく一緒に喜び合う姿がたくさん見られてよかった。
- ◎ 回議方式は時間のやりくりには効果があると思うが、実際に行事が近づいて詰めの段階では顔をつきあわせて話をしないと大変である。
- ◎ 体育を見ていると早くから可能なものは交流を始めた方がいいと思った。
- ◎ 春の校外学習からみるとはるかに違和感なくとけ込んでいると思った。
- ◎ 最初からAの行事や授業での特学としての目標が示されると授業が組み立てやすい。
- ◎ 特学担当者会は時間的に無理がある。学期に1回が限度ではないか。今回のように必要な者だけの打ち合わせを密にした方が効果がある。

VI まとめ

1 成果

(1) Aおよび特学生徒の共通理解

公開授業や行事に向けて個別の指導票をやりとりしていく中で、Aや特学の生徒の特性や身に付けさせるべき学力が見えてきたと言う感想が多かった。特に初めて関わる者にとっては授業を組み立てる上で参考になったと考える。多くの教員が特学の授業に関わることは、特学の生徒の特性が授業を通じて理解され、啓発的な意味で意義があると思われる。個別の指導票は急な担当者の交代などにも目に見える資料として役立った。

(2) 特学と学年とのかかわり

行事を通して特学担任と担当、学年が何度も打ち合わせたことにより、協力して関われることの確認ができ、役割分担も見えてきた。これまで特学の生徒が行事に参加するときには学年の一員だからということで参加を考えてきたが、様々なねらいを持って参加することが可能であることが確認でき、これからの行事（百人一首大会、職場体験、修学旅行等）でも生徒の特性を考えて課題を設定することが意識できた。他の面でもこういった打ち合わせをすることにより指導が充実できると考えられる。

(3) 各担当者間のねらいの調整

教科として身につけさせたい力と特学担任が教科に期待していることがはっきりしてきた。思いの違いが微妙にあるが、Aについて深く考える機会になって意見の調整ができた。また、他の教科のやりとりを見ることにより、自分の授業の参考にできたり、他の授業者の考えが理解できて授業者間の役割分担に役立った。

2 課題

(1) 個別の指導票の様式検討

指導票を回議方式にして時間のやりくりがしやすくなった。特学担当者会のような会議を設定するのはかなり困難であるためこの方式が次善の策としてはよいのではないかと考える。様式については検討の余地が多かった。実際に使用を始めてもまだ様式が定まらず、毎回のようになってしまう。先進校の様式などを参考に本校として実用的なものを作りたい。

(2) 個別の指導票の活用法

時間に追われているときは負担になることが課題である。話し合った方が効率がいいこともあるが、それは指導票でお互いに論点が理解されていることが前提にあると思われる。今後の定着を考えると負担にならるように、メモ書きのような感覚の活用を重視する方向で工夫したい。

(3) 特学担当者会の運営

特学担任や保護者の要望等を確認し、特学生徒の授業を担当するものが自分の授業において何を期待されているのかを知る上で貴重な情報交換の機会だった。特に初めて特学の授業を担当するものにとっては参考になることが多い。課題の多くは時間の確保にある。教科部会や学年会議のように時間を計画的に設定しておくか、回数や時期を検討していく必要がある。

〈参考文献〉

- ・財団法人安田生命社会事業団 『個別教育・援助プラン』(2001)
- ・埼玉県教育委員会 『埼玉県特殊教育課程編成要領』(1)(2001)
- ・東京都 『障害のある児童・生徒のための個別指導計画Q & A』(2000年改訂版)
- ・全国知的障害養護学校長会 『個別の指導計画と指導の実際』 東洋館出版社(2001)